研究会報告 （その1）「6×9判イコンタの変遷」　　会員番号0021　林 輝昭

今回、急に講演予定者の出席できない事情が発生したため、急遽掲題のテーマで話をすることになった。今回の研究会テーマとは異なる内容であるがご勘弁願いたい。なおこの内容は前幹事の片山良平会員がまとめた資料をもとにしている。

6×9判イコンタは1929年に発売されたロールフィルム用スプリングカメラで、1928年に発売されたベスト判のイコネッテに次ぐツァイス・イコン2番目の新型機である。本機の特徴はボディに着けられたボタンを一押しするだけで、ロックされていた前蓋がバネの力で開き自動的に撮影可能な状態になることである。最初は大衆向けの廉価型カメラであったが、速写性に富んだこの方式は数年の内に高級化され、最後には7種類の画面サイズを持つとともに、距離計連動のスーパーイコンタへと発展していった。ここでは戦前の6×9判イコンタの変遷に限って話を進める。

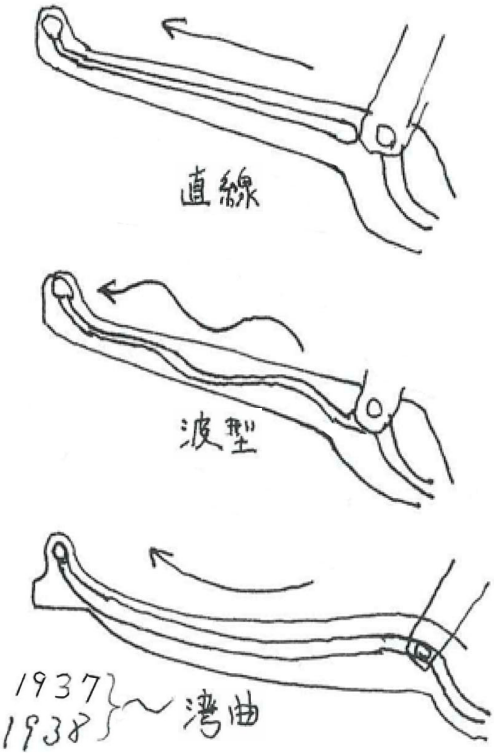
6×9判イコンタ（以下イコンタと書く）は何度も改造が行われている。表1に改造年度と改造点を示す。

写真1は1929年に発売された最初のモデルで、当時はノバー105mm、F6.3、デルバルシャッター付きしかなかった。たすきのガイド孔は直線でファインダーは反射ファインダーのみであった。

写真2は1931年モデルで、前蓋の内側にレリーズとその収納ソケットが付けられ、リベットでとめた枠ファインダーが付加された。ただし、ごく初期のものにはネジどめのものもある。レンズにはドミナーF4.5（シャッターはテルマ）、テッサーF4.5（シャッターは新コンパー）の組み合わせが登場し高級化していった。その後1933年にボディが8角形から12角形になり小型化されたが基本的な構造には変化がない。

写真3は1935年モデルで大きな変更が行われた。一つはたすきのガイド孔が波型になったことで、前蓋開放時の機械的ショックを和らげるためと思われる。二つ目は上級機のファインダーがアルバダ型になったことである。ノバーやフロンター付きはそれまでの枠ファインダーが使われた。三つ目は本機から裏の赤窓を二つにし、ボディ内部にマスクを挿入できるようにして、セミ判兼用機としたことである。四つ目は前蓋開放ボタンの位置を向かって左上から右上に変えたことである。

写真4は1938年モデルで、戦前最後の型である。ここでも大きな変更が行われた。最も大きい特徴は二重露出防止



たすきのガイド孔形状の変遷
（図は片山良平会員の作図による）

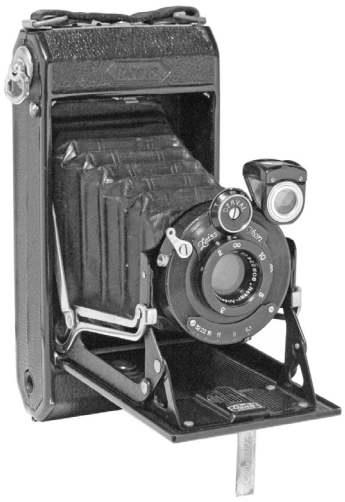


写真 1　1929年発売の最初のイコンタ
たすきガイド孔は直線で、ボディは8角である。

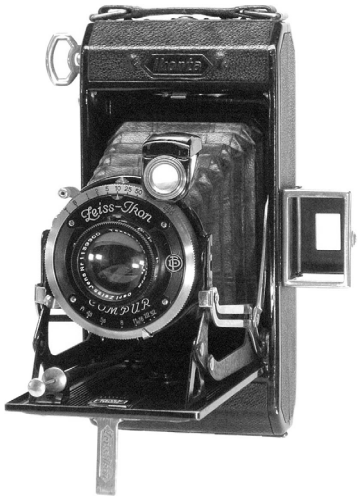


写真 2　1931年モデル
前蓋内にレリーズと収納ソケットが付いた。

写真 3　1935年モデル
たすきのガイド孔が波形となった。

表1　6×9判イコンタの変遷

年	ボディ	たすきのガイド孔	ファインダー	前蓋			赤窓	シャッターボタン	二重露出防止	備考
				厚さ	開閉ボタン	三脚孔位置				
1929	8角形	直線状	反射ファインダーのみ	3mm	向かって左上	基部の左側	1個	シャッター側	無し	
1931	〃	〃	反射ファインダー＋枠ファインダー	5mm	〃	基部の中央	〃	〃	〃	レリーズ付
1933	12角形	〃	〃	10mm	〃	〃	〃	〃	〃	
1935	〃	波型	高級機のみ アルバダファインダー（他は上に同じ）	〃	向かって右上	〃	2個	〃	〃	これ以後セミ判兼用
1937	〃	湾曲型	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
1938	〃	〃	ニュートン型（反射ファインダーは廃止されソケットのみとなった）	14mm	同上（押すと前蓋とファインダーが同時に起立）	基部の右側	〃	ボディ側	有り	別売りの反射ファインダーあり

機構が付加されたことと、フィルムの巻き上げ部を向かって左上から右下に変更して、フィルムの巻き上げ方向を従来と反対にしたことである。この位置を変更した理由は、本機から二重露出防止と連動するボディシャッターを採用したため、ボディ側のシャッターボタンとシャッターの連結を前蓋のヒンジ側で行う必要がある為と思われる。またファインダーは、アルバダを止めて全てニュートン型にし、反射ファインダーの標準装備を廃止した。ただし別売りの大型反射ファインダー（写真5）を差し込めるソケットを残してある。前蓋の開放ボタンは前蓋だけでなくファインダーも同時に開くことができる。たすきのガイド孔はカーブを伴った湾曲型に変更されている。その他高級機のシャッターにはコンパーラピッドが採用されている。なお戦後のモデルでは、写真6のように反射ファインダーソケットのないものがある。

以上主要な点を説明したが、前蓋は、度重なる改造により大型のレンズを採用したりボディを小型化したため、次第に外側に出っ張るようになり厚さが増えている。また前蓋につけられた三脚孔もモデルにより変更されている。これらの詳細は表を参照頂きたい。

以上主にイコンタの戦前における変遷を述べたが、分類するときの手助けとして頂ければ幸いである。

写真 4　1938年モデル（戦前最後の型）
二重露出防止機構が付加され、フィルムの巻き上げ部を向かって左上から右下に変更、ファインダーはアルバダを止めて全てニュートン型にし、反射ファインダーの標準装備を廃止。たすきのガイド孔は湾曲型にするなどの大きな変更が行われた。

写真 5　別売りの大型反射ファインダー

写真 6　戦後モデルの後期型
反射ファインダー用ソケットのないものがある。